

研究業績等に関する事項

著書, 学術論文等の名称	単著, 共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等 又は 発表学会等の名称	概要
(著書(欧文)) 1. We Are Not Garbage!: The Homeless Movement in Tokyo, 1994-2002	単著	2006年	Routledge	213 ページ。2年半のフィールドワークに基づく東京の野宿労働者運動の研究。運動の生成、発展、衰退、成果を最新の社会運動論 (Relational Perspective等) を援用して説明。米国の主要学術誌2誌 (Annual Review of Sociology, Contemporary Sociology) の書評で取り上げられ、良い評価を得た。
(著書(和文)) 1. 『よくわかる社会学』	分担執筆	2006年	ミネルヴァ書房	4ページ担当。「アンダークラス」(米国の極貧層) と「大都市の社会変動」(経済のグローバル化とその影響) について執筆。
(学術論文(欧文)) 1. Toward the Integration of Class, Race/Ethnicity, and Gender: A Review of Theoretical Developments Involving the Sociological Subfields of Social Stratification, Race/Ethnic Relations, and Gender Studies	単著	1997年	Master of Philosophy Thesis. Department of Sociology, Columbia University.	103ページ。M.Phil. 論文。社会階層論の新たな分野として、階級・人種・ジェンダーが交差する諸理論を析出。同時に、交差論に至る学問的展開を知識社会的に明らかにした。
2. "We Are Not Garbage!" The Homeless Movement in Tokyo 1994-2002 Doctoral Thesis.	単著	2003年	Department of Sociology, Columbia University.	283ページ。博士論文。上の6.1の基となった論文。
3. We Ain't Garbage!: The Homeless Movement in Tokyo, 1994-2002	単著	2003年8月	Paper presented at the 53rd Annual Meetings of the Society of the Studies of Social Problems, Georgia, Atlanta.	28ページ。博士論文のエッセンスを論文にまとめ、学会発表したもの。
4. Economic Globalization and the Growth of Homelessness in Japan	単著	2003年8月	Paper presented at the 98th Annual Meetings of the American Sociological Association, Atlanta, Georgia.	20 ページ。日本で野宿者が増加した原因を、経済のグローバル化の視点から論じた学会発表論文。

5. Economic Globalization and the Growth of Homelessness in Japan: The Link between Globalization, Secondary Workers, and Homelessness.	単著	2004年9月	Paper presented at the Society for the Advancement of Socio-Economics, Sophia University, Tokyo	22ページ。上の4を基に、広く日本の非正規雇用の増加にまで視野を広げた学会（の講演会）発表論文。
6. Economic Globalization and Homelessness in Japan	単著	2005年	American Behavioral Scientist 48(4)	989-1012ページ。上の4に大幅な加筆・修正を加えて学術誌に掲載したもの。
7. Forced Evictions of Homeless People and Their Resistance: A Case from Tokyo, Japan.	単著	2011年	Paper presented at the 2011 Joint Seminar on Love, Vulnerability and Victimology: Political Oppression. Tokiwa University. Sponsored by	東京都による野宿者の強制撤去と、それに抵抗した人々の動態分析。茨城大学と常磐大学国際被害者学研究所の共同セミナーで発表した論文。
8. Forced Evictions of Homeless People and Their Resistance: A Case from Tokyo, Japan.	単著	2012年	Love, Vulnerability and Victimology: Annual Report on the Joint Seminar between Ibaraki University and Tokiwa International Victimology Institute.	39 - 49ページ。上の7を修正し、セミナー報告書に掲載したもの。
(学術論文(和文))				
1. 「ネパールにおける貧困の存在形態と発生のメカニズム」	単著	1993年	筑波大学大学院、地域研究研究科	修士論文。国連でいう最貧困国の事例分析。ネパールの3地帯における貧困の特徴を明らかにし、その原因を分析。
2. 「ホームレスはなぜ増えたか：原因論再訪」	単著	2013年10月	社会政策学会第127回大会（於大阪経済大学）	25ページ。過去に左記学会で議論された原因論に新たな視点をもたらすべく、経済のグローバル化に着目して議論を展開。学会発表論文。
3. 「労働社会学のペダゴジー：大学で質的調査法をどう教えるか」	単著	2013年11月	日本労働社会学会第25回大会（於東北福祉大学）	14ページ。「フィールドワーク」の教育実践から、学部レベルで労働社会学的な質的調査法を指導する意義、指導法、調査結果、課題等をまとめた。学会発表論文。
4. 「フリーターはなぜ増えたか：原因論の批判的考察」	単著	2014年10月	日本労働社会学会第26回大会（於駒澤大学）	17ページ。下の「紀要論文」欄の3に加筆・修正を加えたもの。学会発表論文。

5. 「大学生に労働社会的なフィールドワークをどう教えるか」	単著	2019年10月	日本労働社会学会年報第30号	145～162ページ。本学における11年間の教育体験をもとに、指導法・学習効果・課題等について論じたもの。
(紀要論文)				
1. Race, Class, and Interpersonal Attitudes among Black and White Workers in the United States	単著	2009年3月	常磐国際紀要第12号	109 - 125ページ。GSSデータを用いた、米国の人種問題の統計的分析。白人・黒人労働者にみる対人関係意識に着目し、「人種の重要性は後退したか」というディベートに参加。
2. 「大学における質的調査法の授業の現状と課題：社会学系の実習・演習科目を中心に」	単著	2010年	常磐大学人間科学部紀要『人間科学』27(2)	139 - 145ページ。全国の大学の関連シラバスを悉皆調査し、学部レベルの質的調査法授業の実態を明らかにするとともに、課題を指摘。
3. 「若年非正規雇用問題：原因論をめぐる一考察」	単著	2013年	常磐大学人間科学部紀要『人間科学』30(2)	19 - 31ページ。”フリーター”増加の原因につき、高校生に関する先行調査研究を整理、批判的に検討。
4. The Origins of Class Race Gender Study in US Sociology (1)	単著	2017年3月	常磐大学人間科学部紀要『人間科学』34(2)	33～46ページ。階級・人種・ジェンダー研究の起源と理論史を辿る、知識社会的論文の第一弾。
5. ibid. (2)	単著	2018年3月	常磐大学人間科学部紀要『人間科学』35(2)	29～52ページ。上記の第二弾。
6. Three Synthetic Approaches to Race, Gender and Class in the US	単著	2017年3月	常磐国際紀要第21号	79～91ページ。アメリカにおける人種・ジェンダー・階級の統合論の三形態を析出した論文。
(辞書・翻訳書等)				
1. "The Past, Present, and Future of Overseas Chinese Communities in the Pacific Area, with special reference to Southeast Asia,"	単著	1992年	by Tsuneo Ayabe, The University of Tsukuba.	東南アジアを中心とした中国系コミュニティに関する文化人類学的論文の翻訳（和→英）。邦題は「華人の東南アジアへの移民」。掲載誌不詳。
2. "Academic Career as a Cultural Strategy in Corporate Culture,"	単著	1992年	by Soon Hee-Wang, The University of Tsukuba.	韓国の大企業（サムソン等）の企業文化に関する社会学論文の翻訳（和→英）。邦題は「企業文化における文化的戦略としての学歴：キャリアの構築を通して」。掲載誌不詳。
3. 『沈黙を破って：日経アメリカ人のエスニシティ：強制収容と補償運動による変遷』（部分的翻訳）	単著	1995年	竹沢康子、東京大学出版会	コーネル大学出版による英文著書の部分翻訳（英→和）。補償問題に絡んで表出する日系アメリカ人のエスニシティの文化人類学的記述。
4. "The Role of Shunto in Japan"	共著	1999年	佐藤博、マリ・サコ	日本の春闘の役割に関する社会学論文の翻訳（和→英）。邦題は「日本における春闘の役割」。掲載誌不詳。

(報告書・会報等)				
1. 「スリランカの公共投資計画：1988-92」	分担執筆	1993年	『平成3年度経済企画庁委託調査 長期経済協力方針実施のための基礎調査報告書』財団法人日本総合研究所	184-196ページ。発展途上国における開発計画等に関する報告書の一部。スリランカの公共投資計画の特徴について論じた。
2. 「2006年度フィールドワーク報告書：“仕事の現場” 見る、聴く、交わる」	編集	2007年3月	常磐大学人間科学部現代社会学科（あけぼの印刷）P91	「フィールドワーク」履修生が茨城県内の事業所等で実施した現地調査の結果をまとめた報告書。調査研究内容の骨子は問題・課題発見、分析、改善策の提案。編集に加え、巻末で授業に関する資料を提供。
3. 「2007年度フィールドワーク報告書：“仕事の現場” 見る、聴く、交わる」	編集	2008年3月	同上	同上
4. 「2008年度フィールドワーク報告書：茨城県における”仕事の現場” 6つの事業所にみる現状と課題」	編集	2009年3月	同上	同上
5. 「わたくしの研究・教育・社会活動によせて」	単著		『社会理論研究』10号	162~171ページ。自身のこれまでの研究の軌跡、教育上の方針・工夫、及び社会活動についてまとめたエッセイ。社会理論学会の依頼により執筆。
6. 「2009年度フィールドワーク報告書：茨城県における”仕事の現場” 6つの事業所にみる現状と課題」	編集	2010年3月	同上	「フィールドワーク」履修生が茨城県内の事業所等で実施した現地調査の結果をまとめた報告書。調査研究内容の骨子は問題・課題発見、分析、改善策の提案。編集に加え、巻末で授業に関する資料を提供。
7. 「2010年度フィールドワーク報告書：茨城県における”仕事の現場” 12の事業所にみる現状と課題」	編集	2011年3月	同上	同上
8. 「2011年度フィールドワーク報告書：茨城県における”仕事の現場” 自治体と民間事業所の現状と課題」	編集	2012年3月	同上	同上
9. 「2012年度フィールドワーク報告書：茨城県におけるサービス業の現状と課題 8事業所の事例から」	編集	2012年3月	同上	同上

10. 「2013年度フィールドワーク報告書第28集Part4：茨城県における「職場」の現状と課題 7つの事例から」	編集	2014年3月	同上	同上
11. 「2014年度フィールドワーク報告書第30集Part2：茨城県における「職場」の現状と課題 7つの事例から」	編集	2015年3月	同上	同上
12. 「2015年度社会調査実習（フィールドワーク）報告書第31集：茨城県における「職場」の現状と課題 8つの事例から」	編集	2016年3月	同上	同上
13. 「2016年度社会調査実習（フィールドワーク）報告書第32集【長谷川班】茨城県における「職場」の現状と課題4つの事例	編集	2017年3月	同上	同上
14. 「2017年度長谷川美貴ゼミナール【フィールドワーク】調査報告書：茨城県における「職場」の現状と課題8つの事例」	編集	2018年3月	同上	同上
(国際学会発表) 1. "How to Optimize Care for Patients:Two Case Studies from the Task Specific Perspective."  その他の発表については上の「学術論文(欧文)」欄を参照のこと。	単著	1994年	Paper presented at the Biannual Meeting of the Association on Primary Groups and Caregiving, New York, New York.	患者ケア（家族介護を含む）の好ましいあり方について、2つの事例をもとに検討。理論的枠組みは”タスク特殊的アプローチ。” NY市の一次集団・ケア提供に関するアソシエーションにて発表。
(国内学会発表) 1. 「階層、人種・エスニシティー及びジェンダーの統合へ向けて」  その他の発表については上の「学術論文(和文)」欄を参照のこと。	単著	1996年11月	日本社会学会第69回大会（於琉球大学）	上のM. Phil. 論文の骨子を口頭発表。

(演奏会・展覧会等) 1.					
(招待講演・基調講演) 1.					
(受賞(学術賞等)) 1. 「最優秀学生賞」 (Summa Cum Laude)	単独	1981年	ロックヘブン大学	GPA平均3.8以上の学生に授与される賞。加えて米国の文学オナー・ソサエティ Sigma Tau Deltaの会員に推薦され、入会。	

研 究 活 動 項 目

助成を受けた研究等の名称	代表, 分担等の別	種 類	採択年度	交付・受入元	交付・受入額	概 要
(科学研究費採択) 1. 「現代日本における都市下層の動態に関する実証的研究－脱産業化・グローバル化と下層社会」  2. 「愛と傷つきやすさと被害の文化学的・被害者学的研究」	研究協力者  研究分担者	基礎研究B  基礎研究C	2003～2006年  2014～2016年	日本学術振興会  日本学術振興会	1410万円	米国の都市下層研究の動向について発表する等  当該テーマに関する研究課題の検討等
(競争的研究助成費獲得(科研費除く)) 1.						
(共同研究・受託研究受入れ) 1.						
(奨学・指定寄付金受入れ) 1. 「セント・マーガレット奨学金」  2. ペンシルバニア留学基金  3. Scholarship for International Students  4. President's Fellow  5. Graduate School of Arts and Sciences Fellow	単独  単独  単独  単独	奨学  奨学  奨学  奨学	1978年度末  1979年度  1980 年度  1995 年度  1996年度	立教女学院短期大学  トヨタ財団およびローレル交流会  Lock Haven University  Columbia University  Columbia University	10万円  学費・寮費  学費  学費援助  学費援助	在学中、学内活動にて特に功績のあった学生に対して授与される一括奨学金。受賞者は毎年1名。  ロックヘブン大学留学初年度の奨学金。トヨタ財団が寮費を、ローレルが学費を支給。  成績優秀な留学生若干名に学費を支給。

6. Corner House Travel Funds	単独	奨学	1996年11月	Columbia University	旅費援助	学会発表のための旅費の一部支給。
7. Corner House Travel Funds	単独	奨学	2003年8月	Columbia University	旅費援助	学会発表のための旅費の一部支給。
(学内課題研究(共同研究)) 1.						
(学内課題研究(各個研究)) 1. 大学における質的調査の授業：その現状と課題  2. 若年非正規雇用者のユニオン運動の成長要因と今後の展望			2008年度  2010年度		248千円  242千円	質的調査関連授業の向上に資するため、全国の大学（一部大学院を含む）の実習・演習系科目の授業内容を悉皆調査。  文献調査とフィールドワークによる若年非正規雇用者の運動の研究。
(知的財産(特許・実用新案等)) 1.						